

## 第2回宮崎県教科用図書選定審議会 会議概要

### 1 日時

令和2年5月28日(木) 午後1時から午後4時30分まで

### 2 場所

ひなた武道館 大会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員(20名出席)

満園真由美委員、菅朋教委員、寺田菜穂子委員、松下綾委員、黒木龍委員、  
富永陽子委員、橋本昭彦委員、阿部泰宏委員、藤井寛史委員、平田政行委員、  
佐々木孝弘委員、岩崎香恵委員、石川優子委員、立元真委員、河原国男委員、  
大山江里子委員、佐藤公洋委員、西府茂樹委員、中嶋由香委員、渡久山郁子委員

#### (2) 事務局

義務教育課長、特別支援教育課長、義務教育課長補佐、  
義務教育課主幹(義務教育・学力向上担当)、特別支援教育課主幹(指導担当)、  
義務教育課副主幹(義務教育・学力向上担当)  
義務教育課指導主事(義務教育・学力向上担当、計画担当)  
特別支援教育課指導主事(指導担当)

### 4 議事内容

#### (1) 会長あいさつ

#### (2) 議事

##### ① 令和3年度使用中学校用教科用図書研究資料について

- 研究資料作成の経過の報告
- 専門調査員からの説明及び質疑
- 総括質疑及び審議

##### ② 令和2年度宮崎県教科用図書審議会の答申について

- 事務局からの提案
- 質疑及び審議

#### (3) その他

#### (4) 県教育委員会あいさつ

### 5 要旨

- 義務教育課長補佐からの教科書研究資料作成の経過について報告後、専門調査員の説明を受け、質疑応答及び審議が行われた。
- 義務教育課主幹(義務教育・学力向上担当)が令和2年度答申案について説明し、質疑応答及び審議が行われた。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、専門調査員代表からの説明を短縮するなど、審議会の時間を制限して実施した。

## 6 主な質疑内容

### (1) 令和3年度使用中学校用教科用図書研究資料について

#### <国 語>

Q： 子どもたちの読書離れが言われているが、読書力を高めるために、本の紹介以外に、教科書ではどのように扱っているか。

A： 各発行者とも、図書室や図書館の利用の仕方について、コラム等を設け、生徒が読みたい本を選ぶ方法や疑問に思ったことを調べる方法等を具体的に紹介したり、読書活動を取り入れたりして、生徒が継続して本に親しむことができるように工夫されている。

#### <社 会>

Q： 宮崎県のことについて、各教科書は、どのように取り扱っているか。

A： 地理的分野では、畜産や促成栽培についての記述を中心に、本県について全ての発行者が掲載している。また、全ての発行者が、歴史的分野で、小村寿太郎や伊東マンショなど、宮崎県出身の人物を取り扱っている。

Q： 選挙権が18歳になり、主権者教育について、各教科書はどのように扱っているか。

A： 公民教科書の全ての発行者で「選挙権が18歳に引き下げられた」との記述がある。

#### <美術、技術、家庭>

Q： それぞれの教科において、SDGsについて、どのように扱っているか。

A： 〈美術〉

美術においては、デザインの力が大きいと考える。SDGsの目標に関連した建物の写真やSDGsそのものをデザインしたページを設けるなど、各者とも持続可能な社会について生徒自身がイメージできるように工夫している。

A： 〈技術〉

技術においては、各者とも「持続可能な社会」という言葉で取り上げられるとともに、生徒自身のイメージにつながるようSDGsについて具体的に紹介されている。

A： 〈家庭〉

家庭においては、巻末に「持続可能な社会を目指して」を設け、全ての学習において、SDGsの視点から、学習を展開できるよう工夫されていたり、SDGsのページを位置付けて繰り返し取り上げたりしており、生徒が持続可能な社会を目指して考え、行動できるように工夫されている。

## <外国語>

Q： 教科書を見た感想は、大きな変化があるように思うが、コミュニケーションを図る視点として、どのような工夫が見られるか。

A： 英会話や表現する内容を適宜取り上げ、4つの技能を高めることができるような単元の構成・配列を行うなど、各者とも対話的な学びにつながるような工夫が見られる。

## <音 楽>

Q： 日本の伝統音楽を取り上げている割合はどのようになっているか。

A： 我が国の伝統音楽、郷土の民謡や芸能等について、歌唱、器楽、創作、鑑賞の全ての学習を通して取り扱うことができるように工夫されている。各者とも、1年生の教科書において、具体的に取り上げられている傾向がある。

## <総括質疑>

Q： 学習指導要領の改訂に伴い、学習内容にも変化が見られるが、教科書の重さについては、どのようになっているか。

A： ほとんどの発行者において、「二次元バーコード」を活用したり、紙の質を工夫したりするなどして、重さには配慮がなされている。全ての教科書ではないが、平成28年度使用中学校用教科書と比較すると、軽くなっている傾向がある。

## (2) 令和2年度宮崎県教科用図書審議会の答申について

Q： 答申案を示していただいた。この答申を作成するにあたり、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査研究の在り方も例年とは違った形で対応されたとのことだったが、実際には大変だったのではないか。実態を教えてください。

A： 新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態の対応であったため、仕方ないことではあるが、テレワークやメール等でのやり取りが多くなるなど、最終的にまとめる作業が長時間に及んだ。そのため、調査研究にかかる時間は大幅に膨らんだ。また、各教科間の調整など、目に見えない業務もあり、少人数での調査は非常に負担が多かった。さらに、部長である校長先生は職場での対応となり、「日常の業務と切り離して調査研究を行うことは困難な状況にあった」との声も聞かれた。

やはり、一定の調査期間を設け、各教科ごとに集まって調査研究を行うなど、例年通りの調査研究の必要性を改めて感じた。